

ため池群広域防災機能増進モデル事業（継続）

【35（58）百万円】

対策のポイント

複数のため池における決壊防止、洪水調節機能の適切な発揮、水利用調整等をモデル的に支援し、広域的な防災機能の増進を図ります。

（ため池を巡る現状）

- ・ 全国には約21万個のため池が存在し、貴重な農業用水源としての役割を果たしているとともに、洪水調節機能など多面的機能も有しています。
- ・ しかしながら、農村地域は都市化、混住化、過疎化等地域ごとに課題を抱え、農業従事者の減少により、農業経営体系等の地域の農業構造が旧来から大きく変化しています。
- ・ このため、堤体監視等が手薄となりため池の決壊の危険性が増大したり、利水状況が変化し渇水が発生するとともに、その多面的機能が十分に発揮されていないものもあります。

政策目標

集中豪雨等による被害の発生するおそれのある農用地について、防災・減災対策を実施。

<内容>

複数のため池における、決壊防止、洪水調節機能の適切な発揮・ため池間での水利用調整等をモデル的に支援し、ハード対策の効果を補完することより、ため池群の広域防災機能増進体制を強化し、地域全体の防災機能の向上を図ります。

<事業実施主体等>

1. 事業実施主体 都道府県
2. 補助率 定額
3. 事業実施期間 平成16年度～平成23年度
（採択期間 平成16年度～平成18年度）

【担当】農村振興局防災課

岡野・向川（03）6744-2210（直）